

「アリの街」の写真資料展示と 「蟻の街のマリア」資料 DVD 上映会

戦後、東京の下町で「バタヤの子」とさげすまれた子どもたちに 8 年間
愛と希望を与え続け 28 歳でこの世を去った乙女の感動の物語

かつて（1950 年 1 月頃）現在の隅田公園
の一角に「アリの街」と呼ばれる廃品仕
切
り場と労働者の生活共同体がありました



戦後、戦災孤児の救済に日本全国を奔走
したポーランド人の修道士・ゼノ・ゼブ
ロフスキーさんと経済学博士の三女であ
りながら「アリの街」で献身の日々を送
った北原怜子さんらの写真や映像を展示
上映し当時の様子を伝える資料展を開催
いたします

- ◇日 時 2018 年 5 月 19 日（土）13 時～17 時（受付 12 時 30 分～）
- ◇場 所 甲府カトリック教会 サンタルチア講堂
- ◇参加費 無料
- ◇申し込み 不要
- ◇共催団体 NPO 法人 こどもサポートやまなし
甲府カトリック教会
- ◇協 力 アリの街実行委員会
一般社団法人 カトリック船橋
学習センターガリラヤ
- ◇後 援 山梨 ダルク
- ◇問合せ先 NPO 法人こどもサポートやまなし
木村（携帯 090-8031-9608）
（E メール kimura.tema@dream.com）



二〇一八年一月二〇日～二三日

ゼノさんと北原怜子さんと アリの街の写真資料展

水浦征男「コンベンツァル聖ラランシスコ修道会」

エリザベト・マリア北原怜子さんが帰天して今年六〇年になります。命日にあたる一月二三日に合わせて、東京・浅草で「ゼノさんと北原怜子さんとアリの街写真資料展」が開かれました。浅草は、昔「蟻の街」と呼ばれた廃品回収で生計を立てていた人たちの生活の場があったところ。北原さんが、約八年間奉仕活動に明け暮れたゆかりの土地です。同じ台東区に住みながら、最近まで北原怜子さんを知らなかった北島啓行さん(七七)は「若い世代に北原さんを知ってもらいたい」という気持ちで、写真展を企画し、準備しました。同時に、北原さんを蟻の街へ導い

たゼノ・ゼプロフスキー修道士の紹介もすることになりました。

写真展の会場に選んだのは、かつて蟻の街があった場所にほど近い隅田公園の一角、リバーサイドギャラリーです。地下鉄浅草駅からすぐの所です。写真展初日の一月二〇日には教皇庁駐日大使、ジヨセフ・チエノットウ大司教、ポーランドのヤツエク・イズイドルチク駐日大使も参列してあいさつしました。ポーランド大使は「今年はポーランドが再独立して一〇〇年の年、ゼノ修道士のことを多くの日本人に知ってほしい」と述べました。

蟻の街、北原怜子さん、ゼノ修道士に

ついて解説したのは、『風の使者ゼノ』という著作のある文筆家の石飛仁さん(七五)でした。石飛さんは四〇年ほど前、週刊「女性自身」の名物記事「シリーズ人間」で、ゼノ修道士と被災孤児との再会を実現させた人です。

石飛さんが発掘した珍しい写真がありました。たとえばこんな写真です。板壁に囲まれた蟻の街風景、蟻の街の銀行、蟻の街の散髪屋、ドラム缶の風呂に入る子供たち、北原さんが取得した廃品回収の鑑札、など。

今回の写真展の目玉は映画「蟻の街のマリア」の上映でした。この映画は一九五八(昭和三三)年一月に封切られた松竹作品です。松竹本社にも原稿が保存されていないと言われる、いわば幻の映像です。そんな貴重なフィルムを発掘してDVDにして、写真展の会期中毎日上映しました。

北原さんが亡くなられたの一九五八(昭和三三)年一月、映画化が企画され、完成したのが同年一月二月です。驚くほ

ど短期間に映画が出来上がっているのです。当時、蟻の街のマリアこと北原怜子さんがいかに国民に感動を与えただかが想像されます。

映画の内容を紹介しましょう。雨の中、北原さんが傘をさして蟻の街を訪ねるシーンから始まります。怜子さんがなかなか蟻の街に受け入れられない様子、初めて指導を頼まれたクリスマス、子供たちをバスで連れて行った箱根旅行、肺結核に倒れる怜子さん、貧しい蟻の街の病室で息を引き取る場面といったストーリーです。

監督は五所平之助、出演者には、佐野周二、渡辺文雄、夏川静江、山岡久乃、岩崎加根子といったそうそうたる顔ぶれがいます。かわった役者としては、若い頃の丸山明宏(現在の美輪明宏)がいて、ギターを抱えて歌をうたっていました。主役の怜子さん役は、宝塚出身の新人女優、千之麻子さんでした。後の東千代之助夫人です。

映画の最終場面は感動的です。東

京都は土地を不法占拠しているとの理由で、蟻の街の立ち退きを要求します。移転地は用意するが、その代金として二五〇〇万円が必要と迫りました。

昭和三〇年代の二五〇〇万円は、とてつもない大金です。その日暮らしをしている蟻の街の人たちに払える金額ではありません。都からの通達を受け、蟻の街の住民は、落胆しました。そんな中で希望を失わなかったのは北原怜子さんでした。病室の壁に「貳千五百萬圓」と大書して貼り、祈ったのです。東京都との交渉に行く代表の松居桃楼さんに、これは私の身代わりですと言って黒い口ザリオを託しました。根気強い交渉の結果、東京都を動かしました。二五〇〇万円よりはるかに低い金額で、蟻の街の移転が決まったのです。その陰には、カトリック東京教区長、土井辰雄大司教の英断がありました。ドイツ・ケルン教区から贈られた献金を蟻の街に回してくれたのです。蟻の街の、江東区への引っ越しが実現すると聞いた北原さんは、間もなく息



写真提供：アリの街実行委員会